

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒215-0021

住 所 川崎市麻生区上麻生1丁目1番地1号

氏 名 中新産業株式会社

代表取締役 中島 眞一

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	中新産業株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市麻生区上麻生1丁目1番地1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	69	不動産賃貸業・管理業
主たる事業 の内容	貸事務所業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,792	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 ( 2018 年度)	第1年度 ( 2019 年度)	第2年度 ( 2020 年度)	第3年度 ( 2021 年度)	目標排出量
排出量 (t-CO2)	(実) 3,444 (調) 3,584	(実) 3,244 (調) 3,407	(実) 2,764 (調) 2,879	(実) 2,705 (調) 2,786	(実) 3,410 (調) 3,549
削減率		(実) 5.8 % (調) 4.9 %	(実) 19.7 % (調) 19.7 %	(実) 21.5 % (調) 22.3 %	(実) 1.0 % (調) 1.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	基準年度 ( 2018 年度)	第1年度 ( 2019 年度)	第2年度 ( 2020 年度)	第3年度 ( 2021 年度)	目標とした値
排出量原単位等の値					
活動量の値					-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	株式会社OPA内でテナント入替が有り、照明を高効率ランプの導入を推進した。又、熱源設備の運用方法を変更した。又、コロナの影響により、ホテルモリノ・株式会社OPAのテナントでの営業時間短縮を行い、排出量を基準年度比5.8%削減する事が出来た。
第2年度	昨年に引き続き、コロナの影響により、ホテルモリノ・株式会社OPAのテナントでの営業時間短縮を行い、排出量を基準年度比19.7%削減する事が出来た。
第3年度	株式会社OPA内事務所・後方施設照明の設置箇所見直し、LEDランプの導入を推進した。一昨年から引き続き、コロナの影響により、ホテルモリノ・株式会社OPA内テナントの営業時間短縮を行い、排出量を基準年度比21.5%削減することが出来た。
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)	コロナの影響によるホテルモリノ・株式会社OPA内テナントでの営業時間短縮により想定外の大幅な排出量削減となった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	今期の大幅な排出量削減は、コロナの影響による営業時間短縮という一時的な要因が大きかった。次期計画期間では、空調管理の適正化、照明設備の高効率ランプ推進を着実に進め、削減につなげたい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調熱源(吸収式発生器・水冷チラー・GHP)を負荷に応じて選定することで高効率運転の実施。</li> <li>・館内温度、CO2濃度の監視強化による空調管理の適正化を図る。</li> <li>・照明更新時には高効率ランプを採用することを推進する。</li> </ul>
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調熱源(吸収式発生器・水冷チラー・GHP)を負荷に応じて選定することで高効率運転の実施。</li> <li>・館内温度、CO2濃度の監視強化による空調管理の適正化を図る。</li> <li>・照明更新時には高効率ランプを採用することを推進する。</li> </ul>
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調熱源(吸収式発生器・水冷チラー・GHP)を負荷に応じて選定することで高効率運転の実施。</li> <li>・館内温度、CO2濃度の監視強化による空調管理の適正化を図る。</li> <li>・照明更新時には高効率ランプを採用することを推進する。</li> </ul>
<p>第3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調熱源(吸収式発生器・水冷チラー・GHP)を負荷に応じて選定することで高効率運転の実施。</li> <li>・館内温度、CO2濃度の監視強化による空調管理の適正化を図る。</li> <li>・照明更新時には高効率ランプを採用することを推進する。</li> </ul>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>都度、空調管理を見直し、適正化を図って来たが、コロナの影響により空調管理の適正化よりも換気を優先する時期があった。約120台の照明器具がLED照明器具へ更新されたが、計画されていた照明更新自体が見送られたものもあり、排出量削減への貢献は少なかった。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )	×	
その他 ( )	×	

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	無し
第1年度	無し
第2年度	無し
第3年度	無し

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	無し
第1年度	・ 廃棄物の分類化、減量化について再教育を行った。
第2年度	・ 廃棄物の分類化、減量化について再教育を行った。
第3年度	・ 廃棄物の分類化、減量化について再教育を行った。

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	3,444 t-CO <sub>2</sub>	3,244 t-CO <sub>2</sub>	2,764 t-CO <sub>2</sub>	2,705 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	2,043 KL	1,908 KL	1,762 KL	1,792 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
中島ビル	川崎市麻生区上麻生1-1-1	3,350	3,179	2,708	2,625

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度